

COSMETIC

Patent Number: JP1061415
Publication date: 1989-03-08
Inventor(s): OZASA SHOJI
Applicant(s): SUNSTAR INC
Requested Patent: JP1061415
Application Number: JP19870216041 19870829
Priority Number(s):
IPC Classification: A61K7/42; A61K7/00
EC Classification:
Equivalents: JP1907928C, JP6037377B

Abstract

PURPOSE: To obtain a cosmetic having synergistically improved effect for ameliorating chapped skin, by using an extract of KOTSUSAIHO (rhizome of *Drynaria fortunei*), SOKUHAKUYOU (leaf of *Thuja orientalis*), CHIYU (root of *Sanquisorba officinalis*), RENKON (rhizome of *Nelumbo nucifera*), GAIYO (leaf of *Artemisia princeps*), TOSHOYO (leaf of *Pinus densiflora*), ININ (seed of *Coix lacryma-jobi*), REISHI (fruit body of *Fomes Japonicus*) and/or SAN-YO (leaf of *Cryptomeria japonica*) in combination with essentially pure brown pigment extracted from crude sugar.

CONSTITUTION: A cosmetic having extremely excellent effect in ameliorating chapped skin can be produced by compounding (A) extract of one or more kinds of Chinese herb drugs selected from KOTSUSAIHO, SOKUHAKUYOU, CHIYU, RENKON, GAIYO, TOSHOYO, ININ, REISHI and SAN-YO having antiplasminic action as well as anti-inflammatory action, exhibiting skin-smoothing action, scald-remedying action and dermatopathy-remedying action wherein the skin-smoothing effect is insufficient by the single use of the extract and (B) essentially pure brown pigment extracted from crude sugar having skin-beautifying effect which is insufficient by the single use of the extract. The amounts of the components A and B are preferably 0.01-5wt.% and 0.001-5.0wt.%, respectively.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

This Page Blank (uspto)

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭64-61415

⑬ Int.Cl.⁴

A 61 K 7/42
7/00

識別記号

庁内整理番号

6971-4C
K-7306-4C

⑬ 公開 昭和64年(1989)3月8日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 化粧料

⑮ 特 願 昭62-216041

⑯ 出 願 昭62(1987)8月29日

⑰ 発 明 者 小 笹 祥 二 滋賀県大津市比叡平2丁目37-12

⑱ 出 願 人 サンスター株式会社 大阪府高槻市朝日町3番1号

⑲ 代 理 人 弁理士 森 岡 博

明 細 書

1. 発明の名称

化粧料

2. 特許請求の範囲

(1) 骨碎補、側柏葉、地榆、蓮根、艾葉、杜松葉、苡仁、靈芝および杉葉からなる群より選ばれた1種または2種以上の生薬からの抽出物、および粗糖から抽出された実質的に純粋な褐色の色素を配合したことを特徴とする化粧料。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、化粧料に関する。さらに詳しくは、本発明は紫外線などの刺激による皮膚の炎症やアトピー性皮膚炎などを防ぎ、また、肌あれ、日焼け、熱傷、湿疹など、炎症の生じた皮膚を正常にし、症状を和らげる化粧料に関する。

従来の技術および問題点

ある種の生薬あるいは、それらを組み合わせたものから得られる抽出物が抗プラスミン作用と抗炎症作用を合わせもち、整肌作用、抗熱傷作用、

皮膚疾患治療効果を示すことは従来より知られている(特公昭57-5202号公報)。しかしながら、かかる生薬は、単独で用いた場合、その整肌効果が充分ではない。

また、粗糖(いわゆる黒砂糖)を添加した化粧料、例えば、黒砂糖石鹸等も皮膚を白くするといわれている。しかし、従来の化粧料は黒砂糖をほぼそのままの状態で用いているため、砂糖成分などによりその効果、品質等の点において充分なものではない。一方、特公昭59-48809号公報には、黒砂糖から抽出分離した実質的に純粋に着色成分を基剤に添加して砂糖成分の影響なしに活性成分の配合量を任意に設定しうることが開示されている。しかしながら、かかる化粧料もその成分を単独で用いた場合、なお美白効果は充分ではない。

本発明者は、肌あれ改善効果に非常に優れた化粧料を得るべく、鋭意検討を行った結果、これらの成分を併用することにより優れた効果が得られることを知り本発明を完成するに至った。

問題点を解決するための手段

すなわち、本発明は、骨碎補、側柏葉、地榆、蓮根、艾葉、杜松葉、苡仁、靈芝および杉葉からなる群から選ばれた1種または2種以上の生薬からの抽出物、および粗糖から抽出された実質的に純粋な褐色の色素を配合したことを特徴とする化粧料を提供するものである。

本発明の化粧料においては、生薬成分と粗糖抽出物とが共に配合されたことにより、前記目的が達成でき、各々単独で用いた場合に比べて、肌あれ改善効果が相乗的に増加する。

本発明の化粧料に配合される生薬成分としては、骨碎補、側柏葉、地榆、蓮根、艾葉、杜松葉、苡仁、靈芝および杉葉の抽出物が単独、または併用して配合される。

かかる生薬抽出物は、一般に市販品としても入手可能であるが、原料粉末を水、エタノール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール等の溶媒により抽出して得られる。

たとえば、乾燥した生薬細切粉末（混合抽出物

着剤としては巨大網状構造で多孔質の架橋されたポリスチレン系樹脂吸着剤、例えばアンバーライトXAD-1およびXAD-2（ローム・アンド・ハース社製）、セルバクロムXAD-タイプ2（セルバ社製）等の使用が好ましい。特に好ましいのは、セルバクロムXAD-タイプ2である。この樹脂は、例えばスチレンとジビニルベンゼンの懸濁重合によって得られ、その表面は非極性である。吸着剤は一般に多量に使用するのが好ましい。

(2)吸着剤を水洗いして砂糖分を除き、シュガー色素だけが吸着されている状態にする。

(3)吸着剤からのシュガー色素の脱離は、アルコール濃度20%以上の含水アルコールによって行うのが好ましい。具体的には例えば約20~30%エタノールで大半のシュガー色素を溶離し、その後約95%エタノールを用いて完全溶離せしめる。

(4)溶離度を減圧下で蒸発乾固する。

上記(1)~(4)の操作によりシュガー色素を抽出しうる。なお、上記(3)の操作において、最初

の場合は各生薬細切粉末を必要量ずつ混合したもの)100gを50%水性エタノール300ml中に入れ、3時間加熱還流し、ガラスフィルタを用いて濾過する。かかる抽出処理を繰り返して、得られた濾液を合し抽出物とする。なお、生薬抽出物中、靈芝はその菌糸体の培養により得られた培養物からの抽出物であってもよい。

これら生薬抽出物の配合量は化粧料組成物全体に対して0.01~5重量%であるのが好ましい。この範囲より配合量が少ないと整肌効果がなく、また、この範囲を越えても効果の向上は認められない。

一方、本発明で用いられる粗糖から抽出された実質的に純粋な褐色の色素（以下、シュガー色素と称す）は、特公昭59-48809号公報に開示の方法、すなわち、以下の方法により得られる。原料の粗糖はいわゆるショ糖の未精製品（黒砂糖）であり通常サトウキビ、またはテンサイから得られたものが用いられる。

(1)粗糖を水に溶解し、吸着剤で処理する。吸

から約95%以上のアルコールを用いて溶離してもよいが、若干収量が低下する。また、上記(4)の操作にかえて、溶離液から再結晶して精製してもよい。さらに、溶離液中に砂糖分が残存する場合には、上記(3)の操作のあと濾別除去する。このようにして黒砂糖より得られるシュガー色素の収量は黒砂糖の重量の約0.05~0.3%である。

かかるシュガー色素は化粧料組成物全体に対して0.001~5.0重量%配合される。この範囲より配合量が少ないと整肌効果がなく、またこの範囲を越えても効果の向上は認められない。

なお、本発明の化粧料は、公知の方法により化粧水、化粧用油、クリーム、乳液、パック、パウダーなどの形態に調製される。

さらに、本発明の化粧料には前記成分のほか、その態様に応じ、性能を損なわない範囲において、従来化粧料に配合される公知の成分が適宜配合されてよい。

実施例

つぎに本発明を実施例によりさらに具体的に説

特開昭64-61415 (3)

明する。

実施例1および比較例1～3 (クリーム)

後記第1表に示す組成により常法にてクリームを製造した。なお、表中の数値は重量%を示す。

第1表

成分	実施例 1	比較例		
		1	2	3
スクワラン	10.0	10.0	10.0	10.0
ワセリン	3.0	3.0	3.0	3.0
セタノール	2.0	2.0	2.0	2.0
ステアリン酸	2.0	2.0	2.0	2.0
自己乳化型 モノステアリン酸 グリセリン	1.0	1.0	1.0	1.0
1,3-ブチレン グリコール	5.0	5.0	5.0	5.0
濃グリセリン	2.0	2.0	2.0	2.0
トリエタノール アミン	0.3	0.3	0.3	0.3
メチルパラベン	0.2	0.2	0.2	0.2
シュガー色素	1.0	-	1.0	-
ヨモギエキス (艾葉)	2.0	-	-	2.0

成分	配合量(重量%)
カルボキシビニルポリマー	0.2
濃グリセリン	10.0
ピロリドンカルボン酸ナトリウム (50%水溶液)	5.0
エタノール	5.0
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	0.5
メチルパラベン	0.05
シュガー色素	1.0
培養靈芝エキス	1.0
トリエタノールアミン	0.3
香料	0.1
イオン交換水	残部

実施例4 (透明石鹸)

つぎの組成により常法にて透明石鹸を製造した。

成分	配合量(重量%)
石鹸用素地	60.0
濃グリセリン	6.0

香料	0.1	0.1	0.1	0.1
イオン交換水	71.4	74.4	73.2	72.4

実施例2 (化粧水)

つぎの組成により常法にて化粧水を製造した。

成分	配合量(重量%)
濃グリセリン	5.0
1,3-ブチレンジグリコール	3.0
エタノール	8.0
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油	0.4
シュガー色素	0.01
ワレモコウエキス(地榆)	0.10
メチルパラベン	0.05
香料	0.1
イオン交換水	残部

実施例3 (美容液)

つぎの組成により常法にて美容液を製造した。

白糖	15.0
エタノール	20.0
エデト酸二ナトリウム	0.03
骨髄補エキス	0.5
苡仁エキス	0.5
杉葉エキス	0.5
シュガー色素	0.01
香料	1.0
イオン交換水	残部

実施例5 (洗顔フォーム)

つぎの組成により常法にて洗顔フォームを製造した。

成分	配合量(重量%)
ステアリン酸	14.0
ミリスチン酸	10.0
濃グリセリン	8.0
メチルパラベン	0.20
プロピルパラベン	0.20

水酸化ナトリウム	4.0
ラウリル硫酸ナトリウム	5.0
側柏葉エキス	0.1
通根エキス	0.1
杜松葉エキス	0.1
シュガー色素	0.05
香料	0.5
イオン交換水	残部

【評価】

肌あれ改善効果試験法

(試験方法)

冬期に肌あれを起こしている20～50歳の女性15名を被験者とし、3群(各群5名)に分け、各々の群に、実施例1、比較例2および比較例3にて得られた化粧料を適用した。使用期間は冬の1ヶ月とした。各群とも片頬に比較例1の化粧料(コントロール)を塗布し、もう一方の頬には各々実施例1、比較例2、または比較例3の化粧料を1日に朝、晩2回以上塗布した。

判定基準	評価点
皮膚、皮丘が著しく鮮明で整っている	2
" やや鮮明で整っている	1
" の差が認められない	0

第 2 表

試験 No	評 価 (点)	
	角質中の 水分量	皮膚の 表面形態
比較例1 (コントロール)	0	0
" 2	5	3
" 3	6	3
実施例1	13	7

発明の効果

本発明の化粧料を用いると、皮膚が高い水分量を有し、表面形態が整い、非常に優れた肌あれ改善効果を示す。

特許出願人 サ ン ス タ ー 株式会社

代 理 人 弁 理 士 森 岡 博

(判定および判定方法)

1ヶ月の塗布が終了した翌日に下記の方法で測定および判定した。

(i) 皮膚角質中の水分量

角質層中の相対水分量を Skin Surface Hydrometer(I B S 社製)を用いて測定した。比較例1と比べて次の基準に基づき採点し、各群の合計を求めた。結果を第2表に示す。

判定基準	評価点
水分量値が30%以上増加	3
" 20%以上増加	2
" 10%以上増加	1
" の差が10%未満	0

(ii) 皮膚の表面形態

シリコン系樹脂を用いて皮膚レプリカを採取し、実体顕微鏡で観察することにより、皮膚の外観と密接に関連している皮膚の表面形態を調べた。比較例1の場合と皮膚、皮丘を比べ次の基準に基づき評価し、各群の合計を求めた。結果を第2表に示す。